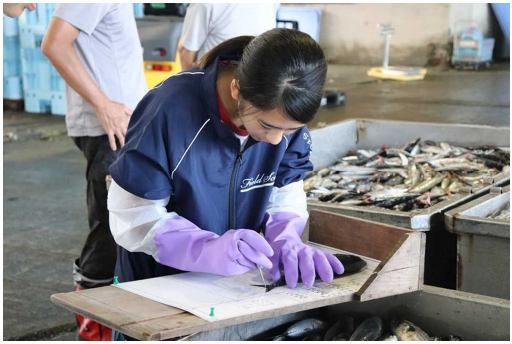
大学生インターンシップを受け入れ

令和元年９月 24 日～10 月５日まで日本大学生物資源科学部３年次学生三堀さんを「インターンシップ（職場体験学習）」として、伊豆分場に受け入れました。県としての大学生インターンシップ受け入れは通常春季に締め切られていましたので、今回は研修生としての受入れになりました。

近年、当場では中学生インターンシップを１日単位で受入れしていましたが、今回は水産専攻の大学生でしかも期間が 10 日間と長期にわたり、分場としても腰を据えた対応が求められました。カリキュラムは分場の業務を職員と同じように体験してもらいました。実習内容を列挙すると、場内の観測、餌やり、イセエビ幼生採集から、潜水調査補助、定置網乗船、市場調査、イセエビ測定、キンメダイ測定、テングサ培養などに加え、最終日は NPO 法人豆游義塾が実施した水源からの水環境体験プログラムに参加してもらいました。



（写真 1）伊東市場での調査

今回は大学側の正規科目「学外研修」としてのインターンシップでしたので、終了後、報告書が送られてきました。感想として「海洋に関する様々な知識が得られ、充実した研修でした」と綴られ、さらに「分場での仕事の多くは地域の方との理解や協力、信頼関係がとても大切である」と看破していました。ここでの体験を基に自分の道を見つけてもらいたいと思います。

（写真 2）イセエビの測定

県では大学生に対して職場意識の向上や県政に対する理解を深めていただくことを目的にインターンシップ制度を行っています。毎年春に静岡県のホームページに案内が掲載されます。興味ある方はぜひとも参加して頂きたいと思います。

（長谷川雅俊）